

平成 27 年度第 4 回南国市行政計画審議会 議事録【第一部】

日 時	平成 27 年 8 月 20 日（木曜日）13：30～14：40
会 場	南国市役所 4 階大会議室
出席者	別紙名簿参照(委員 30 名中、24 名参加)
議 題	(1) まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）について (2) 審議会答申（案）について (3) その他
配布資料	<p>《南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略資料》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 第 3 回審議会議事録</li> <li>2. <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 1</span> まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）</li> <li>3. <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 2</span> 審議会答申（案）</li> <li>4. <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 3</span> 今後のスケジュール</li> </ol>
会議の内容	<p>（事務局）本日の審議事項は、第一部として南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略、第二部として第 4 次総合計画についてお願いします。</p> <p>（会長）本日、南国市版のまち・ひと・しごと創生総合戦略の成案を出そうと考えている。人口ビジョンは、2060 年、41,500 人という意欲的な目標を掲げた。この数字は、社人研の 2060 年のシナリオの人口に対して 1.43 くらいの比率である。このまま行くと日本人の人口は 8,700 万人。これを中長期的には 1 億人維持するといっている。1 億人を 8,700 万人で割ると比率としては 1.15 くらい。この 1.15 に対して、南国市の 1.43 の数字は意欲的と評価できるのではないか。ところが、高知県の人口ビジョンの案は 55 万 7 千という数字が出ている。社人研の予想が 39 万人、55 万 7 千÷39 万とすると、数字は 1.43。県と南国市の比率は同じである。県レベルで見ると平均的な数字となり、県レベルでは意欲的な位置づけにはならない。県は、合計特殊出生率について 2.27 という数字を挙げた。これが理由だ。県レベルで見た位置づけについては、しっかりと分析しないとイケない。34 市町村のトップをきって、南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略が最初に来上がる。この計画がより素晴らしいものになるように議論していきたい。</p> <p>&lt;事務局配布資料確認&gt;</p> <p>委員名簿の 3 番、8 番、9 番、18 番、25 番、28 番の委員から欠席の連絡、15 番の委員が来られていない。出席委員数が 30 名中今現在 23 名で審議会条例第 6 条第 2 項の規定により、委員の過半数の出席で本審議会が成立することを報告させていただく。本日の日程は第一部で南国市まち・ひと・</p>

しごと創生総合戦略に関して、第二部で第4次南国市総合計画の審議をいただきたい。審議会条例第6条第3項により、会議の議長は会長が務める。会長、お願いします。

(会長) 会議次第に沿い議事に入る。第一部まち・ひと・しごと創生総合戦略の(1)南国市まち・ひと・しごと創生総合戦略(最終案)について事務局より説明をお願いします。

<事務局より資料1を説明>

(会長) パブリックコメントの報告があった。前回、できるだけ市民に周知を図り、忌憚のない意見を賜ることが重要と申し上げた。結果的にパブコメが0、これをどう見るべきか。非のつけどころがないという結論か、素案が浸透していなく反応がなかった見るべきか。委員から意見をいただきたい。本来であればパブコメをもとに検討、修正するが、意見が出なかった。前回の委員の発言を元に修正、追加を図ったと説明があった。修正案に意見を賜りたい。県の人口ビジョンを踏まえ発言をお願いします。

(事務局) 追加で委員から提案をいただいている。事業名として、地方移住、官・大学連携CCRCについての提案である。事業のテーマとして、仕事を増やし、安心して働けるしくみを作る。都市から人の流れを作る。町に活力をもたらし安心して暮らす社会環境を作る。CCRCについて高知大学医学部に隣接し、岡豊町中島地区にCCRC特区指定としてはどうかという内容である。CCRCについては、まだ市として十分検討ができていない。今後の総合戦略で検討する。

(会長) ありがとう。委員の意見で、パブコメから出た意見ではないという取り扱いになっている。それでは、質問があればお願いしたい。

(委員) 第2回のあと、FAXで意見を出したが、その後一切触れられてない。届いてないのか、無視されたのか。内容は、道の駅を活用した地域の活性化の提案である。

(事務局) 前回説明したが、観光拠点の整備に「道の駅南国風良里」で反映している。

(委員) すみません、見抜かっていた。

(会長) ありがとう。他には。

(委員) 南国市は食育で、すごく名前が売れている。大学があり高校があり、海洋コアセンター、研究機関もあり、教育も充実している。次は生涯学習だ。生涯学習は年齢は関係ない。高齢者でも子供でも生涯学習ということで、人生を通して勉強することになるが、その拠点が無い。高知市よりもアクセスのよいところに、生涯学習の拠点があれば、他市町村から習

いに来たりできる。イベント、講演や歌手を呼んだりできる。そういうのが全然ない。南国市にそういう拠点があつたら、マンパワーの拠点になって行くのではないか。スポーツセンターという大きな建物はあつるが、スポーツに特化している。スポーツの拠点ではあつるがマンパワーが集う拠点ではない。そういう拠点が南国市の中心にあれば、もっとたくさんの方のことを発信して行けるのではないか。

(会長) ハード的なことか、ソフト的なことか、あるいは両方か。

(委員) 公民館ができるのであれば、もっと文化的な文化施設のようなマンパワーがそこから発信できるようなものを作ってもらいたい。南国市はアクセスがいい。スポーツを習っているが、そういう施設が南国市にあればいい。

(会長) わかつた。ハード的な設備であれば、規模を理解しておかなければ予算が見えてこない。公民館を充実させるというのであれば総合戦略より、総合計画に盛り込んで行く内容ではないか。

(事務局) 総合計画では文化施設の方は目標にしていく。中央公民館のことは現在検討している段階で、今の段階では明確になっていない。ハード面の整備も進めることは市長も考えている。戦略に盛り込むのは厳しい。

(会長) 発言を受け、この後の総合計画のときに盛り込まれていることを確認いただき、不十分であればまた発言を願う。

(委員) 安定した雇用の関係の視点で発言する。労働行政も県の産振計画とタイアップし雇用対策協定を結び、施策を組んでいる。現場のハローワークは管轄行政で、特定の市町村にどうというのはなかなか難しい。今後人口や定住者を増やすには安心安全安定した雇用だ。現場も正社員の就職促進を図っている。非正規、パートの問題の部分で、定住者を増やすには安定した雇用が必要。そのためには、非正規よりも正規。グレードを上げた安定した雇用で、定住者を増やす。経済団体を含めて、お願いしている。今後、それぞれの市町村の商工労働対策関係のなかにおいて正社員雇用、非正規であれば正規というような取り組みで定住を図ってほしい。結婚、子育て、生活では安定した雇用が必要。それからもう1点、若者の雇用が非常に重要である。高校の先生の話では、県内を希望しているのに、逃げられてしまう。労働条件、福利厚生に問題があり、京阪神あるいは東京に流れる。何らかの形で経済界、団体等々とタイアップしアドバンテージをつけ、市町村が協力して先頭に立つ。そうやって定住者を増やす。そしてもう1つは、高卒生の就職。かつては高校生が地元に残りたいのに残れない。これは事業者の求人が非常に遅かつた。ここ2、3年は求人がよく出て、とにかく県の求人を出してくれとお願いしてある。その時でもできれば各市町村の雇用対策の部門として連携して地元の事業主、事業主団体に要

請をお願いしてほしい。

(会長) 雇用の視点で非正規から正規へ、高校生の地元定着、福利厚生のコメントだ。今の段階で総合戦略に盛り込まれていると考えてよいか。

(事務局) 雇用の創出という観点のみで、正規から非正規というのは盛り込まれていない。今後検討する。

(会長) きめ細かい雇用の環境整備という部分を総合戦略で、推進し改善を図ることを、明記しておく必要がある。もし盛り込むことができるようであれば、文言を出してほしい。

(委員) 子供の保育のことだ。前回0才児の受け入れと病後保育の話が出たが、計画の方は変わっていない。足りているように見えるが、空いているところ住居から離れていることがある。南側の保育所が空いているが、北側に住んでる人は難しい。高知市の託児所であったり、探すのに苦労している話を聞く。東西南北にしっかり分け、受け入れ枠にゆとりがなければ出生率は絶対に上がらない。子供を産める環境にないのは、保育所という観点で見ると問題。

(会長) はい。子育て支援策の充実に対応する部分、きめ細かい対策、対応が求められるのではないかと。いかがか。

(事務局) 0歳児保育の受け入れ定数は現在ぎりぎりの状態だ。南国市の0歳児保育と言っているが、6ヶ月以上で、産後すぐに受け入れていくわけではない。一箇所だけ、まみい保育園がある。そこだけが受け入れている。ニーズに対して、十分確保できているかということ、これから充実して行く必要がある。一方で育児休業制度が活用できていない。福祉だけでなく、企業にも働きかけが必要。所得保障の問題もあるので制度がどうなっていくのかを見極める必要もある。特に低年齢児で不足しているので今後検討していく必要がある。方向性として示していないが、0歳児の拡大は視野に入れている。

(会長) どこまで明確に書き込むか重要な部分だが、いくつかの方策が可能性として考えられる。連動させながら、全体の満足度を上げるということだ。

(委員) 今後漁業をどうするのか。南国市には港がない。でも、漁業者はおり、主にしらすを獲っている。いろんな面で地場の魚がないのは寂しい限り。ドロメは私たちが獲り、加工業者が加工して、スーパーあるいは県外に出している。高知新港に係留をして、基盤場所としているが、漁業者が激減している。県と連携を取り、漁業者の確保をしなければならない。しかし南国市は港湾施設がない。漁業というものに非常に疎い。先を考えると海にもう少し力を入れなくてはならない。そうでないと、南国市の発展はない。

(会長) 総合戦略か総合計画に盛り込むべきかと発言があったが、なかなか難しいところだ。総合戦略は、漁業に関しては盛り込まれていない。総合戦略は全体を網羅するという方針ではない。人口ビジョンの実現に向かって、特徴的な内容をいくつか球出ししているというような位置づけである。したがって、総合戦略ではなくて総合計画に盛り込んでいくという考え方が妥当ではないか。県の産業振興における戦略を農林水商工観光ということで盛り込んでいる。事務局からもコメントを。

(事務局) 農業、商工業は盛り込んであるが、漁業は全く触れていない。委嘱にあたり、漁業者の立場で漁協からも委員になっていただいた。戦略に入れられるものがあれば、入れていきたいが、この戦略ではKPI、数値目標を必ず書く必要がある。現段階で戦略に書き込むまでの検討がよくできていないので、今後漁業も挙げていくことも視野に入れながら検討する。総合計画は漁業についても触れていく。総合戦略に入れられるものがあれば、検討させていただく。

(会長) トータルで見たときの海、水産業をどのように戦略に落としこむのか検討し、継続で協議をさせていただく。

(委員) 定住の環境整備が必要だ。後免での定住環境を良くしていく必要がある。空き家バンクの利用がここに盛り込まれているが、空き家バンクでいかに後免の中心の辺りで、空き家を確保できるのか。あと新たな住環境の整備が必要。定住が促進されるにあたり、保育所の整備や他にもいろんな整備が必要になってくる。

(会長) 特に若者の定住について後免の地域での空き家バンク、これに環境整備と情報を集め、ストックを設けていただきたい。プラス住環境の整備に加えて子育て環境の方もそれに併設できるようにという主旨だ。若者の移住を重点化している行政では、集合住宅的なものを建築し、そのそばに子育て施設を設け、総合的に整備するのは常套手段だ。若者向けに重点化した地域を後免で設けていけないか。事務局としてはいかがか。

(事務局) 空き家バンクは、中山間北部でしか空き家の調査、所有者との協議ができてない。平野部では空き家調査はできていない。空き家バンクの活用は宅建業協会、不動産業協会と協定を結んでやっている。業者とも連携を取らないと民業圧迫になる。市は法律上、斡旋できないので業界と連携しながらやっていく。

(会長) 若者の定住環境、雇用の点でも住居環境、福利厚生を具体化する方策として、空き家バンク、民間との協力体制を構築、強化する。こういう部分を全体として充実をさせていただきたい。

(委員) 漁業について。私も海岸近くに住んでいる関係で、漁業に関心がある。かつては久枝の港があった。浜改田には栈橋が設置されていた。せ

めて台風にも耐えられるくらいの栈橋程度は作っていただきたい。次に、観光拠点の整備について。南国市で観光の一番の目玉は、西島園芸団地だ。それが書かれていない。この観光スポットは南国市自体が全面的に支援をして活性化に取り組んでいる。そのことを取り上げてもらいたい。

(会長) 水産に関しては補足していただいた点、検討していきたい。観光のほうで西島園芸団地の名前が入っていないという指摘だ。よろしいか。

(事務局) 西島園芸団地だけではなく、主要4施設を紹介している。西島園芸団地を特化した形では記載がない。経営も安定化し、入込客数も多いということで、主要4施設でK P Iの目標数値としたい。

(会長) 西島園芸団地という名前は出ているので、書き始めるときりがない。名称は出ているということでご理解いただけないか。

(委員) 空き家バンクで、後免は利便性がいいので集まりやすいと思うが、山間部の若者を増やしてほしい。植田団地の例を挙げたが山間部でも受け入れ先の団地ができれば、十分人口が増える要因となるのではないか。市街化調整区域の問題、改善すべき点が山間部にもたくさんあるが、空き家バンク活用などもあるが、団地を作ることを検討してほしい。

(会長) 今の発言は、総合計画の方でも考慮すべき内容だ。それでは、まち・ひと・しごと創生総合戦略はこの内容から一部修正、加筆があるかもしれない。今後の方針としてはどうか。

(事務局) 今日の審議会の後、市議会にも今回の案で報告する。議員の意見も必要。それも含め最終的に本日の委員からの意見と、議会での意見を検討し、最終的な総合戦略は市の方で決定したい。

(会長) これらをお含みおきいただき、これまでいただいた内容を最終案とさせていただきます。よろしいか。ありがとうございます。それでは続いて(2) 審議会答申案について説明をお願いします。

<事務局より資料2について説明>

(会長) この内容を案としてお諮りを申し上げたい。いかがか。ではこの内容で市長に答申書を提出する。ありがとうございます。では(3) その他を事務局より説明を願う。

<事務局より資料3について説明>

(会長) 今日色々な活発なご意見をいただいた。パブリックコメントが寄せられなかったのは残念だが4回にわたり、各方面の成長戦略に盛り込む内容、人口ビジョンの41,500人という意欲的な数値目標を設定できた。

	<p>この4回を通じてできたこの案であるが、一部は修正があるかもしれないが、次の南国市の将来につながることを期待したい。では、第一部のまち・ひと・しごと創生総合戦略の予定した議事は全て終了とする。</p>
--	--